

白血病の診断と治療 in 千葉 (支えあう会 α 共催)

日時：2016年2月14日(日) 13:30~16:30

場所：千葉大学西千葉キャンパス 大学院人文社会学研究科棟

共催：NPO 法人 支えあう会「α」

慢性骨髄性白血病 患者家族の会 いずみの会

講師：中山一隆先生 (日本医科大学 血液内科医長)

2016年2月14日(日)、千葉大学西千葉キャンパスで、「白血病の診断と治療 in 千葉」が開催されました。この企画は、NPO 法人「支えあう会「α」といずみの会の共催です。当日は、強い風が吹き荒れるあいにくのお天気となりましたが、CMLの患者さんを中心に様々ながんの患者さんら、合わせて30人以上もの方にご参加いただきました。そして、前半は日本医科大学の血液内科医長、中山一隆先生によるご講演、後半には参加者による座談会が行われました。

今回ご協力いただいたNPO 法人支えあう会「α」さんは、千葉県を中心に、がんの種類を問わずに、患者さん、ご家族を対象として活動しているがんの患者会です。毎月第1日曜日に行っている定例会、月2回行っている「α」サロン、気功教室、さらに会報誌『「α」通信』を発行されています。また、「α」では様々な疾患や分野について専門家を講師として招く勉強会(連続講座)を主催されています。今回の講座も、2015年度の連続講座の一環として行われたものです。

中山先生による講演では、主に、①白血病の種類とそのメカニズム、②急性骨髄性白血病(AML)の治療、③急性リンパ性白血病(ALL)の治療、④慢性骨髄性白血病(CML)についてお聞きしました。特にCMLの治療は、日本では現在、(1)イマチニブ(グリベック)、(2)ニロチニブ(タシグナ)、(3)ダサチニブ(スプリセル)(4)ボスチニブ(ボシュリフ)という分子標的薬が承認されており、ほとんどの患者さんが薬の服薬だけで治療されています。また、ある分子標的薬の効果がなくなった場合、遺伝子変異解析によって、どの遺伝子に変異があったかを調べ、その結果によって次の治療薬を選択することもできるようです。

後半は、参加者全員で車座になり、座談会形式で行われました。今回はCMLの患者さんとそのご家族が数多く参加されており、お互いの治療歴や副作用、現在の悩みなどが語られました。発症後間もない患者さんから、10年以上の患者さんまで幅広い経験者が集まり、

それぞれの悩みを語られました。なかでも、辛い副作用について語るなかで、「自分だけでなく安心した」というお話が印象的でした。

こうした勉強会や交流会を続けてきましたが、毎回多くの方にお会いし、お話をお聞きすることが、私たちの励みになっています。参加された皆さんにとっても、きっと同じなのではないでしょうか。また、いずみの会としても、患者会の先輩である「α」さんの活動からは、多くのことを学ばせていただきました。また、皆さんとお会いできる機会を楽しみにしています。

文責：河田純一